

町公民館だより

編集 日野町公民館 〒689-5131 日野町黒坂1243番地1
電話：74-0212 FAX：74-0105
E-mail：kouminkan@town.hino.tottori.jp

「来て、見て、ふれて」みんな笑顔で生涯学習
3日間、ありがとうございました！
第18回公民館まつり

12月8日から10日までの3日間、第18回公民館まつりを開きました。開催期間中、作品展示、体験教室、各種バザー、即売会などを行い、延べ377人もの多くの来場者でにぎわいました。今年も、日野高等学校の生徒や鳥取大学などの学生の皆さんに運営ボランティアとして協力してもらいました。参加者や関係者の皆さんに支えられたまつりでした。ありがとうございました。

傘踊りと歌声で開幕

オープニングセレモニーでは、毎年恒例となった黒坂小学校1・2年生9人による傘踊りが披露され、一生懸命に踊る子どもたちに来場者から大きな拍手が沸き起こりました。その後、コーラスグループアザレアの鳥居敏子さんの歌唱指導で、「ふるさと」と「町民歌」を来場者全員で歌い、心ひとつに連帯を深めた後、公民館まつりの幕が上がりました。

心惹かれる作品の数々

公民館全館を使った展示コーナーでは、盆栽、手芸書道、写真、陶芸などに取り組んでいる個人、グループなどの作品や、ひのっこ保育所園児の作品、青少年育成会の「家庭の日」応募作品の絵画・写真、貴重な

歴史資料、各団体の活動報告などが展示されました。創意工夫されたさまざまな作品が目を引きました。

また、今年も、公民館事業で交流のある境港市の上道公民館・外江公民館の作品展や、昨年に引き続き、「鳥取大学春夏秋冬セミナー」の皆さんによる日野町での活動報告も行われ、多彩な展示となりました。

さまざま催しを展開

期間中、さまざま体験教室・講座を開きました。8日には、山の幸を楽しむ料理教室を開き、山菜料理を堪能。苔玉教室では、植物の根を用土で球状に包み、苔を張り付け苔玉を作りました。また、絵手紙教室では、野菜や果物などを題材にした絵手紙に挑戦しました。

9日には、陶芸教室を開

催。町内外から多くの人が参加し、ろくろを使い茶碗などを作りました。昨年に引き続き開催したミッロウ教室では、ミツバチの巣くずから採取したミッロウを使い、クリスマスキャンドルを作りました。

さらに、恒例の日野町赤十字奉仕団による講習会では、高齢者生活支援の講習会を開き、健やかに高齢期を過ごすための知識と技術を学びました。また、公民館駐車場とロビーを使ったバザー・テント村では、開始前から長蛇の列ができ、今か今かと販売開始を待つ多くの人でにぎわいました。

生涯学習まちづくり大会

10日、生涯学習まちづくり大会を開催。はじめに、日野町青少年育成会による「家庭の日」作品入賞者（絵画・作文・写真）の表彰式

を行った後、作文の最優秀賞を受賞した小学生・中学生が作文を朗読しました。続いて、「鳥取大学くさか春夏秋冬セミナー」の皆さんが、「医療戦隊ヘルプレンジャー」に扮し、ミニ



ヘルプレンジャー参上!

健康講座を開催。体操指導や黒坂地区での1年間の活動を振り返りました。

講演では、「地域のために図書館ができること」を必要とされる図書館を目指して」と題し、鳥取県立図書館の三田祐子さんが、知



図書館の機能を解説する三田さん

られざる図書館の業務を紹介。資料相談（レファレンス）で地域が元気になった事例などを聞く中で、あらためて生涯学習がまちづくりにつながることを認識しました。

大盛り上がりの抽選会

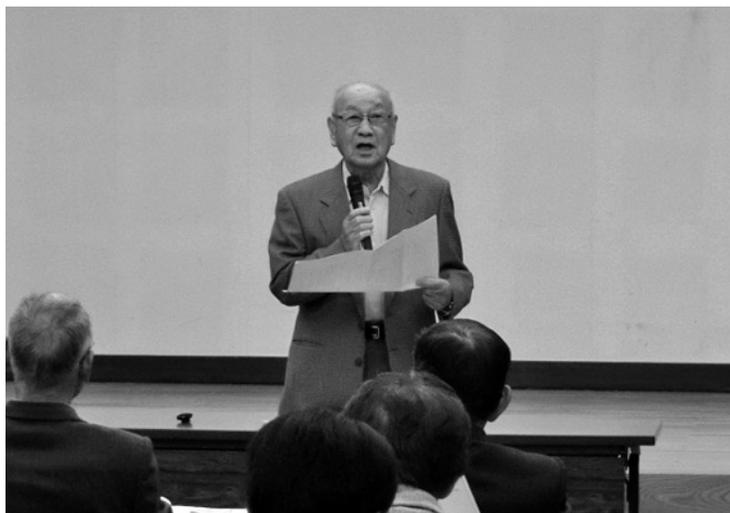
公民館まつりの最後を飾ったのは、豪華景品が当たるお楽しみ抽選会。今年、現在町内で光ケーブルの整備を行っている中海テレビ放送から43型テレビが



特賞のテレビを当てた生田さん(右)。おめでとうございます

特賞として提供され、盛大な抽選会になりました。その特賞を引き当てたのは、生田万里江さん（黒坂）。生田さんは「こんなに大きいテレビ、どこに置こうかしら。まつりに来てよかったです」と笑顔を見せていました。

▼第8回おしどり学園



▲「何事も基礎を大切に」と遠藤さん

し、鳥取県俳句協会副会長の遠藤甫人さん（本名・保人、日野町出身）の公演を行いました。

遠藤さんは、「俳句を作るようになると、新聞や雑誌の文芸欄の俳句が今までと違った目で鑑賞できる」「俳句は心豊かな暮らしをつくってくれます。季節や自然の移り変わりに関心が強くなり、年中行事も楽しめるようになる」と話し、学園生に俳句の楽しみを紹介しました。

12月15日、第8回おしどり学園を開きました。
今回は、「俳句を楽しみむく俳句づくりと楽しみ方の手引き」と題

「季節を感じる言葉」を入れること。遠藤さんは俳句を作る上での約束事を紹介しながら、いくつかの俳句を紹介。その風景や心情を解説していききました。学園生にとって、俳句の基礎や楽しみを学び、俳句への興味を深める講演となりました。

第10回おしどり学園のご案内

日時 2月16日（金）午前9時30分
場所 町公民館 講堂

内容 講演「青年海外協力隊に参加して」※講演はどなたでも参加できます。
講師 青年海外協力隊員 亀山明生さん
問合せ 町公民館（電話 74・02112）

心引き締めしめ縄づくり

▼しめ縄づくり教室を開きました



▲来年も良い一年になるようお願い込め

12月17日、町公民館の恒例行事となっている、しめ縄づくり教室を開きました。

和田佳洋さん（小河内）を講師に、16人が参加し、わらの扱い方や縄の結び方について教わりました。

講師の手際よい作業を手本にしながら、さまざまな形、大きさのしめ縄が完成しました。

参加者は日本の伝統、文化に触れながら、一年を振り返ったり、新年の抱負を話したりしながら、新年を迎える準備を整えることができました。

ふるさとのことば

～日野弁なんずかんず～ 第54回

忘れられゆく「日野ことば」

1970（昭和45）年発行の「日野町誌」第21章では、方言の例として、大正時代ごろの農村地域の日常会話が次のように再現されています。

「おはようきょうもこわいなあおまいげのかああいとりのいかなだか。これは、おはよう。今日も暑いですね。あなたの家の子どもはアユ取りに行かないのですか」という意味になりますが、現在ではほとんど聞かれない「こわい（暑い）」などの表現が入っていますね。

この後会話が進むにつれ

て、「きんによう（昨日）」「あいまち（けが）」「そさね（仮眠）」「にがる（痛む）」「つばえて（ふざけて）」「どまあかいて（からかう、だます）」「うなみご（牝牛）」「こつとい（牡牛）」などなど、今の若えもんには通じない表現のオンパレードとなります。

言葉は時代と共に移り変わっていくものですが、古いからといって忘れられてしまふのは惜しいことです。皆さんも、機会があれば「日野町誌」585ページを開いてみてください。

協力：日野町歴史民俗資料館友の会 参考：「日野町誌」